

広報誌



きたそらち

～農業振興を通じて地域社会へ貢献～

2026

2月号

No.299



1月21日、北育ち元気村花き生産組合の通常総会が行われました。会場には組合員が育てた色とりどりの花が飾られ、参加者を温かく迎えました。

→記事の詳細は3ページ

JAきたそらちでは、ホームページ/Facebook/Instagram/YouTubeで、魅力満載の情報を発信中です！ぜひ、ご覧ください！



ホームページ



YouTube



Facebook



Instagram

JA.KITASORACHI

～ 今月のヘッドライン～

- 第26回JAきたそらち 青年部通常総会 2
- 第3回子ども食堂 子ども達と餅つき体験 5
- 新規就農者が学ぶ道外先進地視察研修 6~8
- 営農懇談会 開催 12~13



JAきたそらち

第26回 JAきたそらち青年部通常総会



1月14日、JAきたそらち青年部（徳重雅也部長）の第26回通常総会が当JAの本所で開催され、委任状による出席を含め42人の盟友が出席した。

徳重部長（幌加内支部）は開会挨拶の中で、この1年間の青年部本部活動を振り返り、「今年度は、2月のスノーメッセージから始まりました。8月には白米販売促進事業として音更町と幕別町で米の販売を行い、10月にはくるるの杜でJAきたそらち農産物フェアを開催しました。多くの方々にきたそらち産の農産物の魅力を伝えることができました。また、全道JA青年部大会では庄司俊喜氏が最優秀賞を受賞し、東北・北海道ブロック大会への出場が決定しました。1年を通じて、多くの皆様のご協力により円滑な活動を行うことができました」と感謝の言葉を述べた。

議事では清水義貴氏（深川支部）を議長に選出し、事業・決算報告並びに事業計画・予算案などが原案通り承認された。令和8年度より本部長を務める北村勇気氏（深川支部）は「歴代の部長が築いてきた活動と地域とのつながりを守りながら、1年間頑張ってまいりますので、よろしくお願ひいたします」と就任への意気込みを語った。

なお、新役員は右記の通り。

【営農企画課 坪】

役職	氏名	支部
部長	北村 勇気	深川
副部長	横窪 佑樹	幌加内
副部長	藤田涼太郎	雨竜
常任理事	松田 晋里	北竜
常任理事	遠藤 雅仁	深川
常任理事	戸田 達也	雨竜
理事	柏木 洋輔	深川
理事	松本 拓磨	深川
理事	曾我部 航	深川
理事	山崎 武流	深川
理事	庄司 俊喜	深川
理事	古川 和也	深川
理事	木村 里久	雨竜
理事	道下 尚矢	北竜
理事	田丸 凌伍	幌加内
代表監事	善岡 龍哉	北竜
監事	笠井 陽太	幌加内

第26回 JAきたそらち青年部通常総会



青年部深川支部・雨竜支部のインスタはこちら！



JA.YOUTH_FUKAGAWA



URYU_SEINENB



青年部での活動、日々の農作業の様子
などを青年部員が投稿しています♪
ぜひ、フォローしてチェックしてみて
ください！



第29回北育ち元気村花き生産組合 通常総会

北空知
広域連

1月21日、北育ち元気村花き生産組合(田村昌之組合長)は、ラ・カンパニーユホテル深川で第29回通常総会を開催し、生産者や市場関係者など約130人が出席した。

総会に先立ち、拓殖大学北海道短期大学 客員教授 森久美子氏による「いいことあった日、花を買う」と題した基調講演が行われた。「花があるだけで自分の生活が変えられる」という自身の体験談で始まった講演。森氏は、日本と世界の花き消費や輸入・輸出の推移について説明した後、花きを飾ったり、アレンジメント作成をしたりすることで「ストレス軽減や室内環境の改善、コミュニケーションのきっかけにつながる」と紹介した。

総会では、昨年度の販売実績を発表し、出荷数量約23万7000箱、販売額12億9500万円となり、18年ぶりに13億円を下回った。要因として、高温障害や生産者の減少、米価高騰による各地作付け面積の縮小が挙げられた。

これに対し田村組合長は、「組合設立当初は317戸であったが、現在は207戸と激減している。新規就農者による第三者継承就農も助けにはなっているが、現存の生産者の経営力向上とともに、担い手育成または後継者を確保することが課題である」と生産者減少の現状を述べた。

また、出荷共励会の表彰も行われ、7部会27名が表彰された。代表品目のスターチス・シヌアータ部門では、一已地区の野原利文氏と北竜地区の加藤亮氏が優秀賞を受賞した。



幌加内町
もち米生産組合

鏡餅を贈呈

12月23日、幌加内町もち米生産組合が鏡餅の贈呈を行い、中西博組合長と谷岡正則副組合長が当JAや幌加内町、上川総合振興局の3か所を訪問した。

同生産組合では、1年の出荷を無事終えたことへの感謝と翌年の豊作を祈願して、毎年贈呈を行っている。鏡餅は下段が直径21cm、上段が直径18cm、重さは約6kgあり、幌加内町産の「きたゆきもち」3升を使用。北竜町の「もち米精米工場」で精米し、「有限会社ひまわり農産」が作成した。

【幌加内支所 中原】



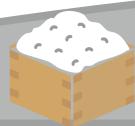
JAきたそらち本所



幌加内町



上川総合振興局



北新小学校で食育授業



昔と今のお米

農業 振興部

11月18日と12月16日の2日間にわたり、北新小学校3・4年生12名を対象に総合的な学習の時間を活用した食育授業を実施した。

11月18日は、当JA職員とイチヤン地区の長野英男氏による「昔と今の稻作 お米ができるまでの道具と方法」について授業を行った。初めに当JA職員が、70年前・50年前・現在の水田と町並みの移り変わりや、耕起から田植え、収穫に至るまでの作業の違い等について写真で紹介した。児童たちは、馬を使って農作業を行っていたことに驚いていた。

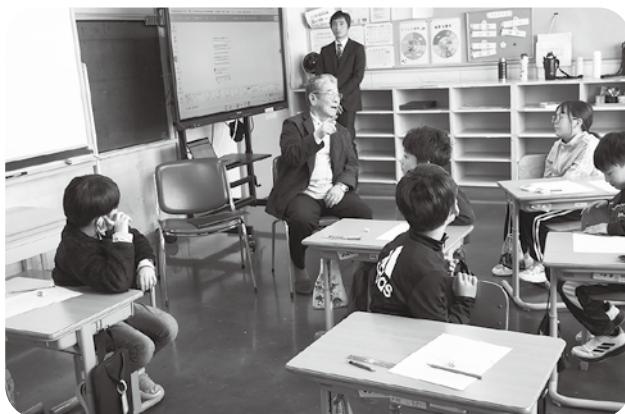
当JA職員は「昔は手作業で時間をかけて米作りをしていたが、今は機械やスマホで効率的に作業できる。どちらにもおいしい米を作る工夫がある。今回の学習を通じて、稻作に关心をもってほしい」とまとめた。続けて、長野氏からは同校学区内のあけぼの町周辺における開拓についての講話があり、現在自分たちが通学している風景や環境との違いを学んだ。

12月16日は、当JA職員が講師を務め、「北海道の気候に合った品種とお米食べ比べ」について授業を行った。

昭和59年に誕生した「ゆきひかり」から始まる北海道独自の品種開発の歴史を紹介し、食味や生産性、品種の特性について説明した。また、児童たちと一緒に「未来のお米」について考え、「食べたら空を飛べるお米」「色がキレイな虹色のお米が良い」など、子どもらしい自由な発想が見受けられた。

最後に、児童たち自身で研いだ4品種のお米クイズを実施。銘柄を伏せ、お米の特徴だけを書いた紙をヒントに、ゆめぴりか・ななつぼし・ふっくりんこ・きらら397の食べ比べを行った。「このお米の香りが好き」「こっちのお米の方が甘くて美味しい」など真剣な表情で味わう児童たち。答え合わせでは、一喜一憂する歓声が教室中に広がった。

【営農企画課 高桑】



第3回子ども食堂 子ども達と餅つき体験

1月15日、深川市社会福祉協議会主催の「深川子ども未来食堂」にて、ボランティアグループあみていえが第3回子ども食堂として餅つき体験を開催した。当日は会員8名が出席し、つきたての餅を使った雑煮などを提供した。

餅つき体験には子ども23名、大人11名の計34名が参加した。炊き立てのもち米を参加者が交代で杵を使ってついた。3回つくりと「少し疲れてきた」と大変な様子であったが、出来上がった餅を丸める工程では一転、「楽しい!」「早く食べたい!」と笑顔があふれ、夢中になって丸めていた。

丸めた餅にあんこやみたらしタレをかけ、雑煮を受け取って食べた子どもたちは、「つきたての餅を初めて食べたけど、すごくおいしい」「餅つきはしたことあったけれど、丸めたことがなかったから楽しかった」と話し、満足した表情を見せた。

同グループの田畠陽美会長は「子どもたちの元気な声と笑顔が溢れ、世代を超えた温かい交流の場となった。今日の体験が子どもたちの楽しい思い出として、心に残ってくれると嬉しく思います」と話した。

【営農企画課 石野】



農業
振興部

北育ち元気塾第6回研修会 開催

12月16日、「北育ち元気塾第6回研修会」がJA北いぶき本所で開催され、塾生7名が参加した。今回は、税理士法人中央総合会計の社労士である本田陽美子氏を講師に招き、「農業経営における労務管理について」の講義を行った。

初めに、労働者の権利や労働保険・社会保険への加入について説明があった。その中で、労災の特別加入については、販売額が300万円以上または2ha以上の農業従事者が加入できるほか、中小事業主等が加入できると詳しく説明していた。

次に、「雇用契約書」の作成を体験した。塾生たちが雇用する立場になったことを想定し、契約例をもとに契約期間、就業時間、休日、賃金などを設定した。「この時給ならやらないかな」「そしたら、住宅手当を基本賃金に回そう」と会話を交えながら、試行錯誤して作成を進めていた。

塾生たちは実践的な演習を通じて、雇用者としての視点を学び、適切な労務管理の重要性を理解する機会となった。

【営農企画課 坪】



新規就農者が学ぶJAきたそらち道外先進地視察研修

11月5日から7日までの3日間、きたそらち農業教育振興基金を活用した「道外先進地視察研修」が実施された。東北と関東の計4か所で視察研修が行われた。本研修は、コロナ禍により活動が制限される中で新規就農した令和3年から5年の新規就農者を対象とし、そのうちの7人と岩田清正組合長が参加した。本研修は次年度以降も継続して実施する予定。

【営農企画課 白川】

本研修における研修内容の詳細や感想などについて、参加者に「研修レポート」を作成いただきました。その中から一部抜粋して掲載いたします。

JAきたそらち道外先進地視察研修レポート①

深川支所メム地区 宮田 雅大

この度、この研修に参加させてもらい、多くの見聞を広げることができました。

初日は、宮城県名取市の【農事組合法人U. M. A. S. I.】さんを視察させていただきました。多くの視察を受け入れているということで、代表理事である大友寛志氏の説明もわかりやすく非常に良かったです。10人の従業員と繁忙期の期間雇用4人という人数で、150haという地域の9割近くの農地を担っているにも関わらず、繁忙期でさえほぼ残業なしで作業されているということに驚きました。主品目の水稻、大豆、子実コーンに加え、果樹栽培や蔬菜、玉ねぎ栽培等、新たな品目にも積極的に挑戦されているようで、見習いたいなど感じました。事務所での説明の後、穀類乾燥調製・共同育苗施設も視察させていただきました。乾燥機や調整機械がたくさん並ぶという光景は見慣れていますが、こちらでは施設のスペースに余裕が大きく取られており、作業性や将来の拡張性なども考慮されていて参考になりました。

2日目は、福島県浪江町へ移動し、【(株)ライスレジン 本社/福島浪江工場】さんを視察させていただきました。以前からライスレジンという素材は知っていましたが、実際に造っている設備を見るのは初めてでした。ライスレジンは食用に適さない米が原料ということで、国内自給できるうえに節水型乾田直播で原料を調達すれば、増加する耕作放棄地の対策としても有効だと思いました。また、工場設備が意外とコンパクトで不快な臭いも無く(むしろポン菓子のような美味しい匂い)、都市近郊や、北海道最大の水稻生産地である北空知・上川近郊に工場を誘致してもいいので

はと思いました。続いて、東京へ移動し、【住商フーズ(株)】さんとの研修となりました。大手町プレイス内の住友商事本社を訪問させていただき、テレビでしか見ることのないような場所に入ることができ貴重な経験となりました。青果、畜産、米と分けて情勢の説明をしていただきました。畜産品に関しては輸入の割合が多いのは予想していたのですが、青果においても25%は輸入品ということに驚きました。また、環境への関心が海外、特にヨーロッパでは非常に高く、温室効果ガスの一つであるメタンの発生源として水稻栽培が名指しで指摘されているということを知りました。

その後は住商フーズさん、サミットさん、住商北海道さんとの会食となり、普段なかなか聞くことのできない話等を聞くことができました。

3日目は住商さんも出資している【(株)NEWGREEN】さんを訪問しました。最近、国も補助金を検討している乾田直播栽培、さらに田に水を張らない節水型乾田直播の話を聞くことができました。北海道でも



近年マイコスを利用した陸稻栽培が広がっており、私も昨年実際に共和町の陸稻栽培を見学し、興味があつたので非常に参考になりました。関心があるものの私の圃場は縦浸透が高く、代掻きをしないと水を溜めることができない圃場ばかりなので、乾田直播は半分諦めていました。しかし、節水型の場合、水を張るわけではないのでほとんどの土質に対応でき、地下水位が高い圃場は向いているということを知ることができました。今後すぐに慣行栽培から節水型乾田直播へ変えるのは難しいかもしれません、将来的に挑戦できる可能性があることを知ることができたので非常に有意義な研修となりました。

その後、場所を移動し、近年の猛暑傾向で話題となっていた再生二期作の圃場を見学させていただきました。一度目の収穫で反当10俵、そしてひこばえを育てての二度目の収穫でも反当5俵採れるということを聞き、非常に驚きました。実際にひこばえからできた穂とは思えないほど立派な穂が出ており、再生二期作の可能性を感じることができました。現状、北海道では難しいとは思いますが、話題の事例を見ることができ、参加してよかったですと感じました。

昼食時にはNEWGREENの黒光啓太取締役にも同席していただき、食事中にも色々なことを聞くことができました。何よりも接点ができたことが大きな収穫になったと思います。

今回の研修では初日からJRの遅れなど慌ただしい

感じとはなりましたが、3日間という短期間とはいえ今後の営農に役立つ知識や人の繋がりを多く得ることができ、非常に有意義な研修となりました。今回このような機会をえていただき、ありがとうございました。今後もこのような研修の機会があれば積極的に参加したいと思います。



JAきたそらち道外先進地視察研修レポート②

雨竜支所 櫻田 良次

1日目、「食育と地域貢献を挑戦」を経営理念としている【農事組合法人U. M. A. S. I.】さんに行かせていただきました。そこでは被災を乗り越え、地域のイベントなどを開催して日々の仕事を楽しくし、農業の機械化などを積極的に取り入れ、「地区の先頭を切って地域を統一していきたい」と頑張っていました。これからも頑張って地域貢献をしていってほしいです。

2日目は非食米を活用したレジンを製造する、【(株)ライスレジン】さんに行きました。こちらでは非食用、政府備蓄米などを活用し、安心・安全のおもちゃ袋などを作っていました。そして必要が無くなったお米とプラスチックを混ぜることでCO2の削減など環境問題を取り組んでいることがとても面白いと思いました。これからも廃棄される米などを使って色々と取り組んでほしいです。

続いて【住商フーズ(株)】さんとお話しさせていただきました。住商フーズは幅広く色々とやられていて、国内物流の話などをしました。やはり国内には輸入品がかなりあり、国産の物がもっとあればいいと思いま

したが、値段などがやはり難しいところもあるのだなと勉強になりました。

3日目、【(株)NEWGREEN】さんへ行きました。ここでは節水乾田直播の話をしました。労力などが抑えられることは凄くわかったのですが、生産量の安定など、まだまだ雑草の問題、機械の購入など問題がたくさんあるので、まだ自分では導入できないなと思いました。しかし、どんどんと後継者や担い手などの人材



が不足し、面積だけ増えていく中では、すごくいい話なのかもしれないと思いました。なので、まずは直播について勉強をしたいと思いました。また北海道では水稻の2回目の収穫はできませんが、こちらではできていたので面白かったです。ここでの節水乾田直播でメタンの発生を抑えられる話はとても勉強になりました。

この3日間の中で、地球環境の改善や人材の不足、農業の機械化、栽培の仕方などの改善が必要だとわかり、とても勉強になりました。自分も色々と今後の農業を頑張っていきたいと思いました。

また今後も、このような研修などがあれば、どんどん参加したいと思う方もたくさんいると思うのでもっと開催した方が良いと思いました。やはり研修に出て勉強しないと分からぬことがたくさんあるので助かると思います。私自身もゼロからの新規就農だったので、まだまだ分からぬことばかりですが、今回の研修で学んだことを糧にもっと頑張っていきたいと思います。



JAきたそらち道外先進地視察研修レポート③

幌加内支所 仙丸 陸

今回は4箇所の企業を研修させていただき、全国的な課題や取り組みを知ることができました。

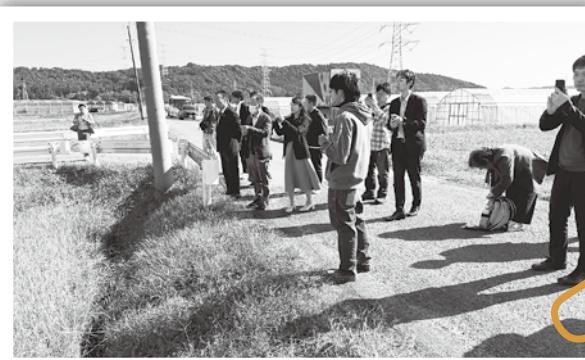
宮城県にある【農事組合法人U. M. A. S. I.】は、農業地域の統一や担い手の育成に力を入れていました。地域での放棄地を増やさないように、若い農業者を基礎から育成し、また大きな乾燥機械の導入をして着実に面積をこなしている印象でした。稻作や大豆等の作付け割合を年ごとに大きく変え、効率的な利益の確保や社員の安定した給与、休暇の体制整備など持続可能な農業への取り組みはとても参考になりました。他にも地域の子供たちへの教育事業は、青年部幌加内支部で行っている世代間交流活動と重なる部分もあり、私たちの活動意義を再確認できました。

【(株)ライスレジン】と【(株)NEWGREEN】ではCO2やメタン削減という環境問題への取り組みが印象的でしたが、古米、耕作放棄地の利用や稻作の省力化にもつながっていると知り、身近に取り入れてみたいと思いました。

【住商フーズ(株)】の流通や取引についての説明でも、環境問題に向き合っている企業や物が大きく評価に関わっていく時代だと言っていたので、生産者となる私たちも少しずつ意識をえていかないといけないことを痛感しました。

研修前は、私にはあまり関係のないものばかりだろうと思っていましたが、企業の方々の説明を聞いてい

ると課題は根幹でつながっていて身近に感じるものも多々ありました。これからは視野を広く持って柔軟に取り組み、より良い農業を営んでいきたいと思います。



JA役職員新年交礼会 開催



1月6日、ラ・カンパニーユホテル深川で、令和8年役職員新年交礼会が全役職員出席のもと開催された。

岩田清正組合長は、年頭の挨拶で役職員に対し「昨年は比較的穏やかな一年であったが、猛暑や大雨、台風の災害が増加している。私たちにできることは、農地を守っていくこと。そして、JAとしてサポートしていくことだ。営農懇談会では、『米の価格が上がって営農を続けてきてよかった』といった声も聞かれた。これは、JAが組合員を支えてきたことが、しっかりと形になった結果だと考えている。今後も、皆さまの力添えをもって組合員を支えるJAとして、共に進んでいきたい」と訓示した。

席上、永年勤続表彰や優良運転者表彰が行われた。提案表彰では、販売部が米の農協出荷への意欲を高める取り組みとして「つなげるおこめ通信」の発行や、昨年12月に開催した「ライスフォーラム」の活動が評価され、表彰された。また、乾麺うどんの商品化を行い、PR活動に努めたことについても表彰を受けた。このほか、総務部はQR伝票を活用した事務効率化、金融共済イチヤン本所は特殊詐欺被害の未然防止についてそれぞれ表彰された。なお永年勤続表彰者については右記の通り。



＜永年勤続表彰30年＞

長谷川正治（金融共済イチヤン本所）

高木 真樹（販売部米穀課）

岡林 良幸（経済部燃料課）

佐藤美代子（金融共済イチヤン本所）

三浦 智子（販売部米穀課）

伊藤あゆみ（経済部経理課）

澤田美加子（金融共済イチヤン本所）

＜永年勤続表彰20年＞

荒田 勇次（雨竜支所営農課）

谷内 健二（金融共済部融資課）

蓑口 達矢（青果部施設課）

板見 秀二（深川支所深川米穀施設課）

中原 淳（幌加内支所営農課）

新入職員のお知らせ (キャリア採用)

よろしくお願いします！



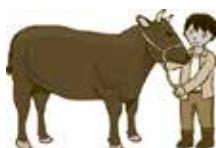
令和8年1月1日付

幌加内農機
自動車整備工場

こばやし だいすけ
小林 大介

令和7年度 ホクレン南北海道市場和牛・交雑牛販売情報

開催日
12/10～12/11
市場成績



品種	性別	区分	市場全体		きたそらち農協	
			本年12月実績	前年同月実績	本年12月実績	前年同月実績
和牛	去勢	出場頭数	905	945	35	44
		平均価格	808,544	599,947	736,385	566,060
	めす	出場頭数	721	794	34	39
		平均価格	716,150	473,845	696,170	483,614
交雑	去勢	出場頭数	29	72	0	0
		平均価格	472,962	344,651	0	0
	めす	出場頭数	274	305	89	64
		平均価格	453,386	313,374	452,600	328,642

【平均価格は円・税込価格】

「協同ノート」

第3回

農協は新たなチャレンジが必要では

北海道大学大学院
農学研究院 教授
東山 寛



1967年 札幌市生まれ。北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了。博士（農学）。秋田県立農業短期大学、秋田県立大学生物資源科学部を経て、2004年北海道大学大学院農学研究院助手。助教、講師、准教授を経て、2021年より現職。

5年に一度おこなわれる農業センサスという統計があります。最新の調査

は2025年センサスで、その結果が昨年11月28日に公表されました。ただし、第一弾の公表で、集計されている項目も少なく、地域別の数字も振興局単位のものに留まっています。それでも、非常に驚いたことがいくつあります。

まず、全道の農家戸数がついに3戸を切ってしまったことに、今さらながら驚きを禁じ得ません。

もうひとつ、衝撃的な数字があります。農地面積の減少です。センサスが把握した25年の経営耕地面積は98万8025haで、こちらの方も100万haの大台を割りました。そして、減少率が大幅に高まっています。15～20年の減少率はわずか2%で、全

戸を切ってしまったことに、今さらながら驚きを禁じ得ません。

必要です。

2025年センサスの数字を眺めて、空知はなかなか面白い動きをしていました。まず、農家戸数は

5000の大台を切ってしまいましたが、(4776戸)、法人の数が619戸で、オホーツクを抜いて全道2位

にまでなりました(一位は十勝の715戸)。全体の戸数減は19%です

が、法人は5年間で11%増えています。

さらに、大注目したい数字があります。それは販売金額規模別の農家戸数です。空知における3000万

円以上の農家は20年が841戸でした

が、25年は1385戸に増えています。この5年間で65%増えており、酷いことではありません。今後もこの傾向は強まるでしょうから、それに合わせて農協も変わることができる

悪いことではありません。今後もこの傾向は強まるでしょうから、それに合わせて農協も変わることができる

か、新たなチャレンジが必要ではないかと思いました。

国的に見ても北海道は農地を維持していると評価されていました。ところが、以下は法人も含めて「戸」で通ないペースで農地の減少が進んでいます。全道の実数は2万9025戸です。5年ごとの減少率もやや高まりました。全道は15～20年が14%、25年が17%減、空知はそれぞれ15%、19%減でした。昔話で恐縮ですが、私が大学に入った1985年の北海道の農家戸数は10万戸でした。それが3万

戸を切りました(センサスの数え方は「戸」から「経営体」に変わっていますが、以下は法人も含めて「戸」で通ります)、全道の実数は2万9025戸です。5年ごとの減少率もやや高まりました。全道は15～20年が14%、25年が17%減、空知はそれぞれ15%、19%減でした。昔話で恐縮ですが、私が大学に入った1985年の北海道の農家戸数は10万戸でした。それが3万

戸を除く他の地域と比べてみて、空知の数え方は断トツです。そして、3000万円以上農家の割合は、20年の15%から25年は30%に高まり

ましたが、この5年間で10%以上減少している地域があり(渡島、檜山、釧路、宗谷)、空知も平均6%の減少です。市町村別の数字がまだ公表されていませんが、とにかく農地が減っている原因を把握して、直ちに手を打つことが





読者の皆さまからの声



12月号のクロスワードクイズで読者の皆さまからご応募いただいた、「身近な出来事」「広報誌への感想」を一部ご紹介いたします。いただいたご意見は、今後の誌面づくりに参考にさせていただきます。引き続き、皆さまのコメントを励みに頑張っていきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



深川市 女性

長芋の収穫写真すごいですね。長芋を買うたびに感謝の気持ちでいっぱいです。
自分では作れないので、農家の方のご苦労に頭が下がります。本当にありがとうございます。



幌加内町 男性

地域の活動を知る数少ない機会を、この冊子が担っていると思います。写真が多く、レイアウトが見やすいです。応援します。



愛知県 男性

お米の話題がたくさん掲載されていて、JAきたそらち管内のお米が食べたくなりました。愛知県にもPRにきてほしいです。



深川市 女性

いつも楽しく拝見しています。地元農産物の美味しい情報をもっと掲載していただきたいです。



新潟県 女性

11月に北海道旅行に行きました。JA直売所でお土産を買い、美味しくいただきました。読み応えがあって、面白かったです。

退職者

大変お疲れ様でした

令和7年12月31日付

◆青果部 施設課

小倉 祐弥



今年の一文字抱負紹介

一昨年から行っている「一文字抱負」。常勤役員5名に2026年の抱負を漢字一文字で表してもらいました。どんな思いが込められているのか、ぜひご覧ください。

また、JAきたそらち公式Instagram・Facebookでもご紹介していますので、ぜひチェックしてみてください。

岩田清正 組合長

Q この漢字を選んだ理由は？

A 持続可能な農業のために、我々 JAとして頑張っていかなければならないということで、「続」を選ばせていただきました。



田丸利博 専務

Q この漢字を選んだ理由は？

A 昨年は激動の年でした。「起」を選んだのは、自分に対しての戒め、そして農協や農業に新しい改革を起こしていくためです。今年こそは何か新しいことを起こしていきたいです。



佐藤一久 常務

Q この漢字を選んだ理由は？

A 2026年は農協経営の安定の兆しが見える年になることを願っております。そして、JA事業を改革の準備をする年という思いをこめて、「兆」にしました。



遠藤康博 常務

Q この漢字を選んだ理由は?

A 今年、年男を迎えるため、新しい志しをもって前に進みたいという思いから、「志」を選びました。



大久保浩隆 常勤監事

Q この漢字を選んだ理由は?

A 競争よりも共感を。組合員に寄り添いながら、共に歩む一年にしたいという思いを込めて、「共」を選びました。



Instagram・Facebook公式アカウントで
動画公開中!



JA_KITASORACHI

@ja_kitasorachi



@きたそら農業協同組合



営農懇談会開催

令和7年12月9日～12月12日

各地区で行われました懇談会内容をお知らせ致します。

◆意見・要望事項 ●対応等

総務関係

◆JA職員の年末賞与について支給額を調整したと聞いた。原因としては集荷率が関係しているのか。JA職員に負担をかけない運営をお願いしたい。それがサービスとして組合員に還元される。また、採用の苦戦や中途退職するJA職員もあり、人材の確保が難しくなっている中、役職員の方のモチベーションを上げるためにも、賞与や報酬で役職員の皆さんにも還元してほしい。

●今回、10月末の推定決算を行った結果、非常に厳しい決算が見込まれています。要因は様々あり、農畜産物の集荷数量の減少に伴う手数料・保管料等の減少のほか、会計基準の変更や連合会からの奨励金の未確定要素などから、現時点で計画通りの賞与を支払うのは難しいと判断いたしました。今後、11月・12月に推定決算を行い、利益が確保されればしっかりと差額を支給いたします。

◆支所職員が減員となり危機感を感じている。支所は様々な業務があり、集荷率

役員報酬についても、人材確保の観点から増額変更が必要ではないかという意見をいただいており、経済情勢を踏まえ検討を進めてまいります。また、農畜産物の取扱量の減少も対策していかなければならぬと考えています。ご意見を真摯に受け止め、人材の確保と組合員の営農に対してもしっかりと業務をしてまいりますので、ご支援をお願いいたします。

◆米の集荷に関して、役員がもつと組合員宅を回るべきではないか。業者はもつと回っている。

◆営農懇談会の開始時間9時は早いと思う。他地区の理事が遠方から来られたりすることなどを考えると、もう少し遅くしても良いのではないか。今後、検討してまいります。

◆JA職員について、ここ数年、採用する人数より退職する人数の方が多い、人員が不足している部署も見

◆JA職員の人事について、金融共済課長と営農課の経験者が同時に異動することがあり、JA職員が少ない中ではあるが、地域が困らないうような担当配置をしていただきたい。

◆役員の執行体制について、青年部も深川市内の5支部が合併したが、役員の負担が増えていると感じるため、慎重に進めてほしい。

●主な理由は、他業種への転職や家業へ戻ることなどが挙げられます。現在は中途採用が主になっており、社会的にそのような傾向があると考えられます。中途採用者で即戦力となる方も多いため、そのような人材を育てていければと思います。また、完全週休二日制の導入などを含めた労働環境を改善し、退職者の抑制や新卒者の獲得に努めています。

金融共済関係

◆営農懇談会の役職員の出席人数について、組合員よりも多いように感じるため、

◆昔ほど組合員とJA職員のコミュニケーションが取りにくくなっていると感じる。JA職員に専用の携帯電話を持たせるという案を以前に聞いたことがあるが、コミュニケーションを増やす方法を検討してほしい。

●JA指導も含めて現場に上手く操作出来ず戸惑つている。金融職員が教えてくれるが申し訳ないとと思う。金融店舗窓口のタブレットにつきましては、利用者

の利便性向上と窓口業務の効率化を目的としたシステムとなつております。操作に戸惑われると思いますが、金融職員が操作のご案内をいたしますので、何度もお気軽にお声掛けください。

農業振興関係

きたいと考えております。また、以前の懇談会において指導謝金の助成制度は幅広く周知してほしいとのご意見もいただいており、1市3町の新規就農支援制度の概要も含め、JAきたそらちホームページで公開しております。さらに、令和7年4月より、求人情報の掲載も新たにホームページ上で開始しております。

- ◆昨年のJクレジットの入金が終わっていないが、現状どうなつていていますか。
- グリーンカーボンから12月に支払うとの案内が届いておりましたが、金額の詳細は不明で、現状入金もされておりません。年明けになる可能性もございますが、状況が分かり次第ご案内いたします。

- ◆指導謝金制度の雇用就農者に対する支援が対象外になつた。経緯について伺う。
- 令和6年4月より、「雇用就農資金（農の雇用事業）」活用者を対象から除外することといたしました。理由は以下のとおりです。支援対象となる研修生については、助成金交付後、5年間の雇用就農報告を求めておられます。が、この間に様々な理由で退職となり、助成金返還事由の対象となる件数が全体の約5割に達し、定着していないという課題が残つておりました。このため、雇用就農者を対象から除外した経過にあります。

- ◆就農・担い手対策について、現況および支援内容について伺う。
- 就農・担い手対策については北竜支所においては北竜町役場内の農業担い手センターが中心となり、各就農フェアへ積極的に出向くなど就農者の確保に向けて取り組んでおります。JAの支援制度については、従来から「新規就農者受入対策助成（以下、指導謝金）」制度があり、引き続き活用いただ

の構築に向けて検討してまいります。

◆JAきたそらちのYouTubeチャンネルがあるが、更新の期間がかなり空いているJA職員の業務の関係もあると思うが、週に1、2回の更新が無ければ、チエックしている人は離れていくんだろうと思う。

●YouTubeは毎日のように更新した方が良いことは理解しておりますが、JA職員が対応しており、なかなかそこまで更新できない実情です。令和7年3月に広報担当職員の退職により、一時期、担当者を手当したことといたしました。理由は以下のとおりです。支援対象となる研修生については、助成金交付後、5年間の雇用就農報告を求めておられます。が、この間に様々な理由で退職となり、助成金返還事由の対象となる件数が全体の約5割に達し、定着していないという課題が残つておりました。このため、雇用就農者を対象から除外した経過にあります。

◆YouTubeの再生回数を見た時、Instagramに全振りして、業務的にも絞つた方が良いのではないかと思う。（意見）

このままでは支援制度も先細りすることが予測され、今後、市町の交付金制度も参考にしながら、新たなJA担い手支援制度

ると、11月上旬にも実施してほしい。

●業者の回収の関係もあるため、内部で協議の上、後日ご回答させていただきます。

◆営農計画書のデジタル化について、個人ごとの昨年実績が分からぬため、どのように反映させていくのか。

●セキュリティの関係があるため、個人ごとの実績は反映させることはできません。どのような方法でお伝えするか協議の上、後日ご案内させていただきます。

販売関係

◆そばの生産における今後の高温対策について

●そばの高温対策としては、開花期をずらすことは有効な手段であると考えられるため、個人ごとの実績は播種・収穫時期を遅らせる等の対策は一定の効果があると考えます。しかし、極端な遅播きは減収につながるため注意が必要です。今後も優良事例等を検証するなど、関係機関と連携し、収量確保に向けた対策の検討と情報発信を行つてまいります。

◆米価の高騰と今後の米価の見通しについて

●米価の高騰は生産者としては喜ばしいことではあります、消費者の米離れが心配されており、主食として食べていただくための価格帯は意識する必要があると考えます。一方で、物価高騰による生産費の上昇が続く中、将来への投資も視野に入れた再生産可能な価格形成も重要なとなります。今後の情勢は不透明ではありますが、米価については



咽頭炎から扁桃周囲膿瘍へ

医療法人社団本間クリニック 院長 本間 裕



のどの痛みは、風邪をひいた時に感じる最も多い症状の一つで、非常にありふれています。その多くは咽頭に炎症を起こした「咽頭炎」で、急性咽頭炎と慢性咽頭炎があります。急性咽頭炎の多くはウイルス感染、時に細菌感染による急性炎症で、発熱を伴うことが多いです。風邪症状が数日で自然に治まればよいのですが、常にそのような経過をたどるは限りません。

インフルエンザであれば抗ウイルス剤が存在しますが、インフルエンザ以外のウイルス性咽頭炎の場合は残念ながら特効薬はありません。いかにのどの痛みが長く強く続いているても、消炎剤やうがいと安静、消化の良いバランスの取れた食事で免疫を支える以外の治療法は無いのです。肉眼的所見や検査で細菌感染が疑われる場合は、ペニシリンなどの抗菌薬の効果が期待されるので、これらを使って治療します。痛みが強く食事を摂ることもできない場合には補液（点滴）を必要とすることもあります。

慢性咽頭炎ではのどの痛み、違和感や飲み込みにくさなどを感じることがあります。様々な原因が考えられ、胃酸の逆流、自己免疫疾患などがその一例です。また、まれながら悪性腫瘍で疼痛を訴えるケースがありますが、この場合の痛みは比較的長期にわたるものです。神経痛や狭心症・心筋梗塞の関連痛、精神的なストレスでのどの痛みを感じことがあるため、これらを鑑別することが非常に重要です。咽頭炎の経過中に、のどの奥にある口蓋扁桃、いわゆる「扁桃腺」が赤く腫れ、あるいは白い異物状のものが点々と、もしくは膜状にとつ

くことがあります。これが急性扁桃炎の状態です。やはり細菌感染の場合は抗菌剤で治療されますが、軽快後も菌が扁桃の奥に残っていると、免疫の低下で扁桃炎を繰り返すことがあります。加齢とともに扁桃は萎縮し、急性炎症を起こす頻度が減りますが、年に4～5回／年の発熱をともなう扁桃炎を反復している場合は、習慣性扁桃炎として扁桃を取り除く手術（扁桃摘出術）を行った方が良いと言われています。

扁桃の炎症が扁桃の外側に進展した状態を「扁桃周囲炎」、その部位に膿が貯まってしまった状態を「扁桃周囲膿瘍（のうよう）」と呼びます。のどの痛みが非常に強く、嚥下困難となります。口が開きにくくなり、耳の痛みを感じることもあります。扁桃の周囲が大きく腫れ、内部に膿の貯留がある場合、最も腫れている部位に針を刺したり（穿刺）、あるいは切開刀で粘膜を切つて排膿します。この場合速やかに改善することが多いです。抗菌薬と補液で治療しますが、扁桃周囲膿瘍の場合は残念ながら入院が必要となるケースが多いです。膿がたまる場所によつては、通常の視診では診断できない場合もあり、内視鏡での検査が必要です。一度扁桃周囲膿瘍に罹患すると再発しやすく、何度も繰り返す場合には扁桃を手術で取る（扁桃摘出術）必要があります。このようにのどの痛みと言つても、その原因にはいろいろなものがあり、鑑別が必要ですので、ぜひ専門家たる耳鼻咽喉科で診察を受けることをお勧めいたします。

金融共済部からのお知らせ

融資関連手数料について

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和8年4月1日（水）より融資関連手数料を下記のとおり改定させて頂きますので、お知らせ申し上げます。

単位：円（税別）

手数料項目		内容		手数料
JAバンクローン 繰上返済事務手数料	全般	※ JA ネットバンクでの一部繰上返済 ※ 2		無料
	住宅ローン	全額繰上返済	繰上返済 500万円未満	20,000
			繰上返済 500万円以上	30,000
	一部繰上返済	一部繰上返済	残高の 50%以内 ※ 1	無料
	マイカーローン 教育ローン リフォームローン フリーローン	全額繰上返済	繰上返済 100万円未満	5,000
			繰上返済 100万円以上	10,000
		一部繰上返済	残高の 50%以内 ※ 1	無料
	農業・生活関連資金（新設）※ 3		手形貸付	全額・一部に関わらず一律
			証書貸付	全額・一部に関わらず一律
	融資証明発行事務手数料（新設）		1 通あたり	融資証明書 住宅ローン年末残高証明書（再発行）
質権設定事務手数料（改正）		1 件あたり	公証人役場における確定日付の付与手数料（非課税）別途徴収	
不動産担保設定事務手数料（新設）※ 3		1 件あたり	設定・変更・解除	
登記事項等調査事務手数料（改正）※ 3		1 件あたり	全部事項（不動産・商業・法人登記） 地図・土地所有図面等	

※ 1 一部繰上返済で 50%を超える場合は全額繰上返済手数料に準ずる。

また、一部繰上返済については、年 1 回（JA 年度）までとして、2 回目以降は全額繰上返済の手数料に準ずる。

※ 2 JA ネットバンクでの一部繰上返済については、回数制限を設定しない。

※ 3 受託資金は除く。

金融共済部からのお知らせ

まさかの事故・故障・盗難時にかかる 自動車修理費以外のさまざまな費用を保障します

レッカー・ロード費用保障条項

NEW 全車種を保障

ご契約のお車が、事故、故障、車両トラブルで走行不能になったとき、または盗難されたとき、下記の費用を保障します。

レッカー費用

走行不能となり
修理工場までの
運搬にかかった費用



ロード費用

走行不能となった場所
において自力で走行で
きる状態に要した費用



レッカー・ロード費用共済金

1回の事故について
レッカー費用・ロード費用を合算して
15万円まで保障

宿泊費用

走行不能となり緊急に宿泊した
場合の宿泊費用



宿泊費用共済金
1回の事故について
被共済者1名につき
1万円まで保障

帰宅等費用

走行不能となり公共交通手段で
帰宅した場合の交通費



帰宅等費用共済金
1回の事故について
被共済者1名につき
1万円まで保障

陸送等費用

修理後、車の引き取りにかかった陸送費
または交通費



陸送等費用共済金
1回の事故について
※交通費は往路1名分を保障
15万円まで保障

※1宿泊費用には飲食等を要した費用は含まれません。※2酒気帯び運転の間に走行不能になったことにより生じた損害は保障の対象にはなりません。※3ご契約のお車のカギの紛失により生じた損害は保障の対象とはなりません。※4ご契約のお車の燃料切れにより生じた損害（電気自動車である場合の電池切れを除く）は保障の対象とはなりません。※5陸送等費用、宿泊費用、帰宅等費用は、ご契約のお車が走行不能となり、修理工場等まで運搬された場合にかかり、共済金をお支払いします。※6レッカー・ロード費用保険委扱が締結されている場合、レッカー・ロードサービスをご利用いただけます。詳しくは「ご契約のしおり・約款」をご参照ください。

JA共済サポートセンターへの 事前連絡でさらに安心！

レッカー サービス

限度額15万円を超えて
運搬距離が無制限に！*

燃料給油 サービス

ガソリン等を最大10Lまで
お届け（1年に1回）

サービスの利用にあたっては一定の条件があります。

※レッカー費用に関して、利用者が事前にJA共済サポートセンターに連絡し、JA共済サポートセンターが手配する業者が運搬する場合であり、利用者が指定する修理工場等まで運搬することが合理的であるとJA共済サポートセンターが判断し、予め承認したときに15万円の限度額を適用しません。

車両諸費用保障特約

NEW 古いお車などの自然故障も保障

ご契約のお車において、車両損害が生じたとき、または故障で走行不能となったときに、下記の費用を保障します。

代車費用

レンタカー等の借り入れをした場合に
かかった費用



代車費用共済金
1回の事故について代車を
借り入れた日から30日を限度に

代車費用共済金保障

※1日につき代車費用共済金日額を限度

車に積んでいた物品の損害

ご契約のお車に積んでいた被共済者所有
に動産が壊れた場合の損害額



積載動産損害共済金
1回の事故について

200万円を限度に積載動産損害の額を保障

●代車費用共済金日額はご契約のお車の用途車種に応じて下記の6区分から選択できます。

代車費用共済金日額

3,000円 / 5,000円 / 7,000円 / 10,000円 / 15,000円 / 20,000円

※お支払いには所定の要件があります。

※ガス欠、バッテリー上がり、バッテリー液の消耗等、ご契約のお車の電気系統の故障または機械系統の故障を伴わない走行不能は含まれません。
※車両損害保険特約が付加されている場合には、車両損害保険特約に規定する対象事故による車両損害に限ります。

この資料は概要を説明したものです。ご検討にあたっては、「重要事項説明書（契約概要）」を必ずご覧ください。
また、ご契約の際には、「重要事項説明書（注意喚起情報）」および「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。

お問い合わせ



共済センター TEL 0164-34-7151

イチヤン本所 TEL 0164-22-6618

音江支所 TEL 0164-25-1111

深川支所 TEL 0164-22-2171

納内支所 TEL 0164-24-2211

多度志支所 TEL 0164-27-2111

雨竜支所 TEL 0125-77-2331

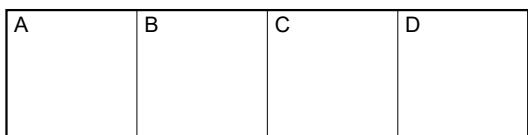
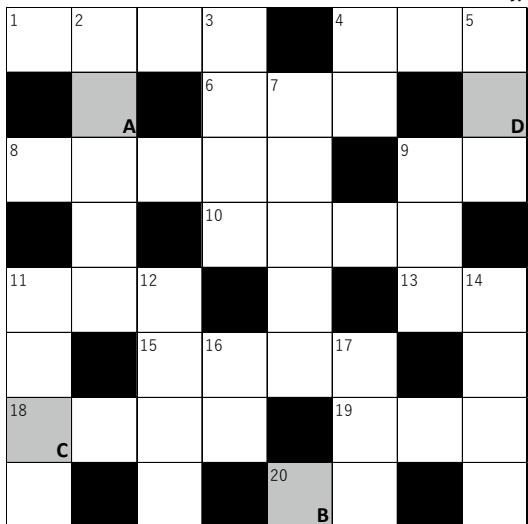
北竜支所 TEL 0164-34-2280

幌加内支所 TEL 0165-35-2024

25011055020

クロスワードパズル

提供元:クロスワード.jp



12月号の正解は

「ユキゲシキ」でした。

正解者の中から抽選で3名が選ばれました。

深川市 蔵根 将洋 様
北竜町 藤田奈都希 様
北竜町 西野 京子 様

応募方法

正解者の中から抽選で3名様に農協全国商品券をプレゼント。ホームページ応募フォーム・ハガキ・FAXで①クイズの答え②住所、氏名、年齢③身近な出来事④農協たよりに対するご意見ご要望を記入の上ご応募下さい。締切2月28日消印有効で当選者とクイズの答えは令和8年4月号に掲載します。

【送り先】〒074-0015 深川市深川町字メム10号線山3線5850番地

JAきたそらち農業振興部営農企画課 FAXの場合は 0164-22-1228

※ハガキで応募の場合、85円分のハガキまたは切手をご使用ください。

【ホームページ応募フォーム】URL:https://www.ja-kitasorachi.com/living/application_form/

※ご本人以外による応募は抽選の対象外とさせていただきます。



一月俳句

● 土筆俳句会

「道」俳句会 北竜支部

退院を決まるや早し冬の雲
ありていの七草刻む我家流
自分との約束をまず初日記
平凡の妻の手料理去年今年
尾白鷺メガソーラーに啼いて
一声で決まる同期の新年会

あさまだき風あしはしる雪の玉
除雪車のフル回転や飽かず見る
子等帰りいつもの二人離煮食ぶ
初詣カウントダウンの群に沸く
食べ飲んで家急ぐ子等早四日
極暖の靴下もらうクリスマス
地吹雪や十勝平野は白い夜
元朝やどの家の軒も背も糺し

● 雨竜俳句会

家族の輪膝で割り込むストーブ前
またひとつ歳重ねる除夜の鐘
四時なればカーテン引くは冬至の日
霧の朝胸すくような晴れを待つ
久々に産声響く冬田村

外仕事背なしに懐炉の二つ貼り
阿部れい子 山下 好晴
山岸 正俊 阿部れい子
吉尾 広子 佐藤美智子
吉見サヨ子 池田 美知
高尾美津子 南川富美子
佐藤英三子 池田 美知
滝口富美子 菅原 優子
森田裕美子 沼田留美子
小橋 厚子

第13回理事会 〈令和7年12月25日開催〉 以下の事項について決議・承認されました

1. 関係団体等諸会議について
2. 会計監査人の再任の決定（内定）について
3. 令和8年度監事監査計画について
4. 内部監査報告について
5. 組合員の加入脱退について
6. 11月末推定決算結果について
7. 財務報告及び事業実績について
8. 決算実地棚卸立会について
9. 年末訓示の取り進めについて
10. 職員の人事及び業務事故について
11. 令和7年度提案表彰について
12. 貸出金の貸付報告について
13. 大口貸出先（信用供与1億円超）の概況について
14. クミカン精算状況について
15. 補助事業の採択結果について

- 議案第1号 令和7年度第3四半期随時監査の結果について
- 議案第2号 令和8年度内部監査計画について
- 議案第3号 組合員の出資金持分譲渡について
- 議案第4号 貸出金の貸付について
- 議案第5号 令和7年度 深川支所クミカン精算に係る農協仮渡金の対応について
- 議案第6号 令和6年産米の違約金について
- 議案第7号 令和7年産米の違約金について
- 議案第8号 令和7年産 小麦2次概算金の支払いについて



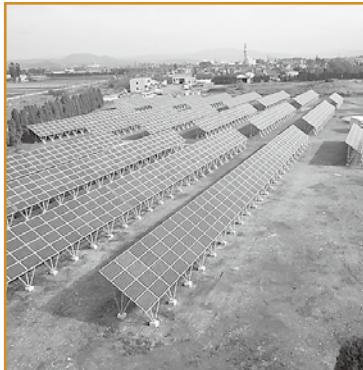
16. JAきたそらち農業教育振興基金活用事業実施報告について
17. 令和8年産米の「生産の目安」について
18. 過年産米の精算内容について
19. 令和7年産米集荷奨励金の支払いについて
20. 令和6年産米追加概算金について
21. 令和6年産民間流通小麦最終精算について
22. 令和6年産JA共計大豆最終精算について
23. 令和6年産そば最終精算について
24. 令和6年産雑穀最終精算について
25. 令和7年度畜産物の販売実績（11月末）について
26. 令和7年度 青果・花き集荷販売実績について
27. R7農薬大口奨励金の支払について
28. R8農薬価格設定について
29. 経済部事業実績について

- 議案第9号 令和7年産 幌加内そば共計概算金の支払いについて
- 議案第10号 令和7年産 雜穀概算金支払いについて
- 議案第11号 令和7年度 系統外販売取引先の選定について

組合員の動き

（令和7年12月末日）

		当期首	加入	脱退	当月末
正組合員	個人	1,156	20	36	1,140
	団体	110	3	0	113
准組合員	個人	5,326	56	70	5,312
	団体	261	3	6	258
正組合員戸数		818	1	14	805



JAきたそらち太陽光発電所 発電実績

○令和7年12月実績

発電電力 **12,278kWh**

計画対比

△500kWh

前年対比

△5,838kWh

売電金額 **491,120円 (40円/kWh)**

経済部 資材課からのお知らせ



JAきたそらち

本所資材店舗

店舗入口より
お入りください

作業衣類 展示会

2026年

2月26日(木)

9時～15時



普段店頭にはない
防寒長靴やヤッケ、手袋類を
期間限定の展示会価格
として格安で提供！

※写真は去年の様子になります

♪同時開催♪

きっちゃん みゅう
(10時～14時)

コッペパンサンド
鶏のから揚げ 他

↓コッペパンサンド↓



作業衣類展示会のお問い合わせは経済部資材課まで
Tel: 0164-26-0124

